

# 令和2年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

教育目標	《建学の精神》
	質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和と統一のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす
	○社会の変化に柔軟に対応し、生きる力と豊かな心を育む教育 ○互いの立場を尊重し、生徒・保護者・教師がともに幸せになれる教育

今年度の重点目標	『教育理念の確実な取り組み』
	1. 「5J」の浸透と具現化 (①自主 ②自律 ③自覚 ④実践 ⑤自治)
	2. 「鳥取城北生5つの誓い」励行 ①さわやかな挨拶をします ④学ぶ姿勢を大切にします ②礼儀正しい服装や言葉遣いをし ⑤自ら考え責任ある行動をします ③人を大切にし自分を大切にします
	3. 目指す教師像に関連し、積極的な授業改善を行う。 4. 目指す学校像に関連し、しっかりとした進路保障を行う。

年度当初				最終評価				
評価項目	評価の具体項目	現状 (R1年度実績)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次期に向けての改善点等	
学力強化	1-③ 1-④ 2-① 2-② 2-③	生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。	・スタディサプリ到達度テスト正答率はコースによっては達成できたが回もあったが、多くは目標の50%を下回った。 志学50.1%、特進37.2%、研志38.1%、スポ科29.1% ・学習時間の推移 1年 98分⇒116分、2年 112分⇒109 3年 146分⇒119分	・スタディサプリ到達度テスト正答率50%達成 ・年度当初と比較して、家庭学習時間が増加している	・スタディサプリの活用およびテスト結果に基づく苦手克服。 ・課題配信、定期考査範囲への設定、長期休業中の課題として活用する。 ・コース・学年・クラスの連携、クラス担任と教科担任の連携、それぞれを密にとる。 ・定期的に学習時間調査を実施し、学習時間を把握する。 ・プラスアルファや放課後の時間を利用して学習習慣をつける。	学習時間(1日当たりの平均)推移 (1学期⇒3学期※3年は2学期) 1年生 122分⇒144分、 2年生 129分⇒132分、 3年 133分⇒68分 到達度テスト正答率 普通・研志・スポ科 1年 46% 2年 34% 3年 29%	C	・定期考査等の学習時間調査の確実な入力の徹底。 ・到達度テストの結果を活用した解き直しや苦手単元の学習の復習の機会設定。 ・到達度テストを視野に入れた3教科での継続的な対策の取り組みを実施し、生徒に明確な目的意識を持たせる。
	1-③ 1-④ 2-① 2-② 2-③ 2-④	生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	・3年生：現役国公立大学＋難関私立大学合格者 ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上32名 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上41名	・3年生：現役国公立大学＋難関私立大学合格者延べ数35名 ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上40名 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上40名	・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・地元大学の授業体験を積極的に行い、大学教員との交流を深める。 ・生徒面談を積極的に行う。 ・短期集中学習会を実施する。(例年の合宿に代わるもの。) ・資格取得のため、積極的な検定受験をすすめる。	3年生：現役国公立大学(29名) ＋難関私立大学(15名)合格者数 42名 2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上 28名 1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上 44名	B	・二次試験指導を充実させ、難関国公立大学の合格者数の増加を目指す。また鳥取大学合格者数の増加を目指す ・早期からの意識付けにより、中堅・難関私立大学7の合格者数の増加を目指す ・総合型選抜・学校推薦型選抜に向けての積極的な検定の資格取得や各種活動を促す。
	③ 1-① 1-④ 2-① 2-② 2-③ 2-④	全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就労意識を構築し、第1志望内定率を上げる。	・就職内定率100% ・第1志望内定率86.2%	・「内定率100%」を早期に実現(1月中旬まで) ・第1志望内定率80%以上(就職希望者：53名)	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化し就職ガイダンス。 ・インターンシップ・企業説明会・企業見学・アルバイト・様々な職種の講話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等。	・1月中旬までに内定率100%を実現(2月に就職へ変更あり、内定) ・第1志望内定率86.2%(学校紹介希望者：25/29名) ・自己縁改6名 公務員17名合格 就職計52名	A	・3年生の早期就職模試の開始 ・生徒との面談機会を増やし希望する職種を把握する。 ・インターンシッププロジェクトを就職につなげるよう改善する。
	1-① 1-② 1-③ 2-① 2-② 2-③ 2-④ 2-⑤	頭髪服装規定を理解させ、主体的に身だしなみを整えることを通して規律ある生活習慣を身につけさせる。	・頭髪服装検査において、一部の生徒が違反を繰り返すという傾向が見られる。 ・学期はじめの検査での不合格率が高い。	・日々の生活の中で、規範意識を持ちながら自らの姿を正しくつくり上げる事ができる。 ・毎日の身だしなみチェックで正しい頭髪服装を自らがチェックできる。	・身だしなみチェックを活用しながら、日々指導の積み重ねを大切にす。 ・違反者への段階的指導を徹底しておく。 ・必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。	頭髪服装検査において初回合格率が85%を超えており落ち着いた様子である。違反や検査不合格を繰り返す生徒が定まってきているので、担任と連携して指導をおこなう必要がある。	A	全体的に頭髪服装の様子は安定してきており、問題行動も減少傾向にあり落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒指導上の問題を抱える生徒がある程度決まってきたため、個別に家庭とも連絡をとり、継続的に指導をおこなう必要がある。
生徒会	1-① 1-④ 1-⑤ 2-①	生徒主体の生徒会活動を活発にさせる。	・校内清掃や毎週の執行部会の実施など執行部の生徒は意欲的に活動している。 ・企画部を通し生徒主導の活動を促進している。 ・各種委員会に所属する学級役員の活動ができていない。	・学校行事や生徒会活動に、生徒が主体的に関わっている。 ・学級役員活動や意見箱の活用を通して、生徒が主体的に生徒会活動に関わっている。	生徒会活動への参加意識が高まったとあてはまる。だいたいあてはまると感じた生徒 全校 66% 1年 61.5% 2年 67.1% 3年 69.5%	C	・2学期は生徒会未経験の生徒が多かったが先輩が後輩をサポートしてくれた。 ・来年度は生徒会に関わる先生方に生徒会執行部会に参加してもらうようにする。	
	1-③ 2-① 2-② 2-③ 2-④	LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。	・年度末生徒アンケートの結果「人権問題に対する考えが深まった」と答えた生徒が93.5%であった。	・生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	人権問題に対する考えが深まったと回答した生徒が95.3%であり、中間評価時の92.8%より向上した。 1年 94.1% 2年 93.7% 3年 96.7%	A	・人権教育LHRを充実させるための教員の研修会を行っていく。 ・個別面談を利用し、クラスの実態把握を行い人権教育LHRに生かしていく。	
ICT推進	3 4	ICTを活用した教育活動を推進するため、生徒教員ともにICTスキルを高める。	・Google ClassroomをはじめとしたG Suiteやロイノートなどのアプリを、授業と家庭学習において活用できるようになっている。	・G Suite推進リーダーの教員が活用セミナーを受講し、そのスキルを学年や教科で共有するための研修などを行う。 ICT活用をテーマとして研究授業を各教科で実施する。	教職員アンケートで 平均点2.9 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B	・ICTを活用することがなぜ必要なのか、その目的を教職員に理解してもらえよう発信を行う。 ・GIGAスクール構想PT内で、教科・コース・学年におけるICTの具体的な使用場面を検討し、教員間で教え合いをしながらICTスキルを高められるような組織作りを行う。	
	3 4	生徒を伸ばすために教員の授業スキルをさらに高める。	・教材研究や指導法研究を常に意識し、年度当初に比べて自らの教科指導力が向上したと実感できている。	・ファインドアクティブラーナー等を活用し、教員個々および教科会で授業方法の研究を行う。 ・研究授業、授業見学を通して、互いに研鑽し合う。	教職員アンケートで 平均点2.9 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B	・研究授業について学校全体の実施計画を立て、教科主任会⇨教科会で授業改善の取り組みを推進していく。 ・ファインドアクティブラーナーの活用を促し、自己研鑽を行ってもらう。	